

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 20年 12月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	2872600248		
法人名	社会福祉法人しあわせ福祉会		
事業所名	加西の里認知症老人生活介護事業所		
所在地	兵庫県加西市段下町字奥山848番地の14 (電話)0790-48-2552		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成20年9月26日	評価確定日	2008年12月15日

【情報提供票より】(平成20年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤	6人, 非常勤 1人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	1階建て	1	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	7,200円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900円

(4) 利用者の概要(平成20年8月20日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	6	要介護2			
要介護3	3	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 86歳	最低	78歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	城谷医院 竹村整形外科医院
---------	---------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの玄関を開けるとウサギが出迎えてくれ、オープンキッチン、中庭が見える大きな窓、ゆったり開放的な空間で、心が和む雰囲気である。運営推進会議もオープンな方向で昨年度の決算報告をする等経営の透明性に努めている。梅酒やらっきょ漬を毎年利用者が進んで行き、利用者中心の支援の工夫がなされている。ホーム便りには毎月利用者が家族宛にひとことメッセージを書いている。地域との連携は、近所に民家が少なく、顔なじみの関係は作りにくい、散歩や買い物等外出の機会を増やし、利用者が地域に溶け込めるよう心がけている。友人、知人、ボランティアの訪問もよくみられる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	平成20年のグループホームの目標として「地域で自分らしく暮らし続けることを支える」を立て、地域の行事に積極的に参加し、利用者の馴染みの店に行く等、昨年以上に外へ出る機会を増やしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	職員で分担して自己評価し、主任と副主任でまとめた。評価を通して職員の活動ぶりや利用者にあまり変化がなかったこと等再確認できた。職員は普段のコミュニケーションの大切さや自分を客観視して新たな支援の方法に気付くこと等ができた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	会議では昨年度の決算報告をしたり、食事作りの見学をしたり、GHの経営や内容の理解が得られるよう工夫されている。利用者も参加し、家族の希望や地域からのグループホームへの入居や認知症高齢者ケアの相談に答える等、理解と協力の上に成り立つ関係作りに取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族の訪問は多いが、疎遠の方には電話で状況報告し来所を促すこともある。来所時には声かけして意見や苦情が出しやすい雰囲気作りに努めている。家族との交流会は年2回行っているが、食事やみんなでの団樂が主で、家族同士での話し合いの場には至っていない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	地元の知人や友人の訪問、併設のデイサービスの利用者やボランティアとの交流が行われている。利用者の馴染みの場所へ買い物に行ったり地域の行事に参加して地域に溶け込めるよう努めている。近くに民家が少なく、一般住民とのつながりがとりにくい。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・地域で自分らしく暮らし続けることを支えるを理念としている。H20年のグループホームの目標に地域密着に関して、地域に開かれたホームとして地域の方々の訪問を受け入れ、地域の行事に積極的に参加する等双方向の交流を目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・職員会議で理念の共有を図っている。職員は外出を増やし、地域の人に進んで挨拶し、近くで畑仕事をしている人に声をかける等地域と馴染みの関係作りに努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の行事に参加、ホームの祭りに招待等や地元の知人・友人の訪問、地域のボランティアとの交流等が行われている。近くに民家は少なく、住民とのつながりは取りにくい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・分担して全員で自己評価し、主任と副主任でまとめた。評価を通して職員の活動ぶり、この一年間で利用者にあまり変化がなかったこと等を再確認できた。昨年の第三者評価結果から地域密着の目標を定めた。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・市職員、地域代表、家族代表、利用者代表等で開催。事業所の現況報告、家族の希望や地域の相談等話し合いを行っている。ホーム活動の見学もしている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・市担当者が立ち上げたグループホーム連絡会や運営推進会議で情報交換を行い、市との連携も取れている</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・年4回「たんぼぼ便り」を発行し利用者の様子を報告、利用者も家族にひとことメッセージを書いて送っている。特変時は電話連絡する等定期的及びその都度個々にあわせた報告に努めている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族との交流会を年2回行い意見や苦情が出やすい工夫をしている。</p>		<p>・交流会では家族同士で話し合う時間を設けていないので、今後は家族同士で意見交換する時間を作り、希望や苦情が出しやすい場として交流会を活用してはいかか。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・法人内の移動はあるが、離職はほとんどない。法人の職員は顔なじみで混乱は少ないが、新任の場合は、馴染みの職員と一緒に利用者に関わり、ダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・法人内外の研修に希望者は参加できる。研修後報告書を出し職員間で共有している。職員に資格取得も勧めている。法人内で職員間の研鑽の場として委員会を立ち上げている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・グループホーム連絡会を3ヶ月に一度開催して意見交換している。運営推進会議の進め方、利用者の対応、各種情報交換等話し合っ、サービスの質の向上に役立てている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・入居前本人宅を訪問し、本人、家族と話し合い、ホームの情報も伝える。生活歴を把握し、安心して利用開始できるよう支援している。利用開始時は家族の協力や利用者の気分転換等で一日も早く馴染んでもらえるよう工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・利用者から昔からの習慣を学ぶことが多い。料理、畑仕事、梅干やらっきょ漬けも教えてもらっている。ウサギを飼い始め、飼育を共に行っている。夜勤明けの職員に「昨夜はお疲れ様でした」と毎日挨拶してもらう等利用者の声かけで元気が出る。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・利用者一人に担当職員が二人いる。思いや意向が出しやすいよう、写真を使ったり、選択肢を与えて選んでもらっている。利用者同士の会話の中から、また入浴中など何気ない会話の中からも把握している。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・心身の状況を「私の姿と気持ちのシート」を使って職員が利用者の気持ちになって記録している。その過程での新たな気付きを全職員で話し合い、ケアプランに反映させている。家族の意見は担当職員が聞き取り、食事療法等は医師や看護師の意見を求め計画に反映している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・利用者の一週間の変化を週間チェック表に記録しているので、それを参考に、定期見直しをする。特変事は、家族、医師や看護師等に相談し、現状把握した上で見直している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・早期退院や生活維持のための医療措置など、併設の嘱託医が24時間体制で対応している。利用者は併設デイサービスに気軽に友人に会いに行くなど交流している。利用者の希望による「ふるさと訪問」を実施している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・利用者や家族の希望を優先にかかりつけ医の受診を支援している。併設嘱託医の受診も希望に応じて支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・利用者・家族の意向は事前に確認している。病状の変化があった場合はその都度かかりつけ医、家族と相談し、対応について職員間で共有している。現在一人の方の看取り介護の同意書がある。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>・全職員が一人ひとりの声かけに対し良く配慮している。他の利用者との関係にも常に注意した対応に心がけている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・日々の暮らしの中で、その人の好みの行事のパンフレットなどを見せて、一緒に外出することを持ちかけたり、日記をつけたりと個々の過ごし方を大事にしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・調理や準備、後片付けなど得意な人には日常的に関わってもらっている。職員も一緒に食事をしているが、別に用意したものを食している。</p>		<p>・一緒に調理から後片付けまで携わるにも関わらず、同じ食事を楽しめないのは残念である。何らかの工夫、検討の余地はないか。</p>
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>・週3回の入浴としている。利用者個々の好みの温度や時間等を聞きながら、出来るだけ希望に沿ってくつろいでもらうよう努めている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>・利用者の普段の様子から好きなことや出来そうなことを内々に準備し、一緒にしている。梅干作りやらっきょ漬けは利用者の希望で毎年行っている。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>・買い物等の外出は、家族の了解を得ることを前提としてため、不在等で確認できない場合は、利用者の希望に添えないことがある。ホーム周辺の散歩等は日常的に行っている。</p>		<p>・利用者の希望に添うためには原則として、包括的な事前了解を取るなどの工夫をしたらどうだろうか。</p>
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>・夜間の防犯のみ施錠している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・3ヶ月に1回夜間想定や出火場所を変えての訓練をホーム独自で行っている。併設施設全体の避難訓練も行っている。地域には自衛消防組織が備わっている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・併設の管理栄養士がバランスを考慮した献立をたてている。お茶の時間として「たんぼぼ喫茶店」で好みの飲み物を飲んでもらっている。食事や水分摂取量は記録している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・オープンキッチンのリビングは中庭が見渡せる広い窓があり、庭は芝生で洗濯物を干したり、季節の野菜を育てている。玄関スペースはベンチが置かれ利用者の社交場として活用されオルゴールの音楽が流れている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・使い込まれた家具や日用品が使い勝手良く置かれている。その人の好みや習慣がうかがわれ居心地の良い空間となっている。</p>		

 は、重点項目。